

国立大学附属病院の将来像 ～現状と展望～ 「グランドデザイン2016」

国立大学附属病院長会議 常置委員会
将来像実現化担当校
東京大学医学部附属病院長
齊藤 延人

〈これまでの経緯〉

平成24年3月 「国立大学附属病院の今後のあるべき姿を求めて ～その課題と展望～」策定

平成24年6月 将来像実現化ワーキンググループ設置

教育、診療、研究、地域貢献・社会貢献(地域医療)、国際化、運営、歯科の7分野のプロジェクトチームを設置

平成25年6月 将来像実現化 行動計画2013策定

平成26年6月 将来像実現化 年次報告2013／行動計画2014策定

平成27年6月 将来像実現化 年次報告2014／行動計画2015策定

平成27年6月 第69回病院長会議総会において見直し(改訂)を決定

以降、将来像実現化ワーキンググループ、7分野のプロジェクトチームにより検討

平成28年6月 第70回病院長会議総会において改定版(グランドデザイン2016)を承認・公表

〈改訂に当たって〉

これまでの実績

- 国立大学附属病院は、現在全国で42国立大学に設置。
- 教育(医療人材の養成)、診療(高度医療の提供, 地域への人材供給)、研究(診断・治療法の研究・開発)を通じて、我が国の経済・社会の発展や、安心・安全な国民生活の実現に貢献。
- 他病院では対応が困難な難治性疾患、がん・周産期・臓器移植等の社会的要請の強い課題に積極的に対応し、社会に貢献。

環境の変化・課題

- 社会情勢の急速な変化 (人口減少社会の到来、情報通信技術の普及等)
- 医療安全、大学病院のガバナンス問題
- 臨床研究の倫理問題
- 医療の国際化
- 大学病院運営の経営面での課題 等々

取り巻く環境が変化

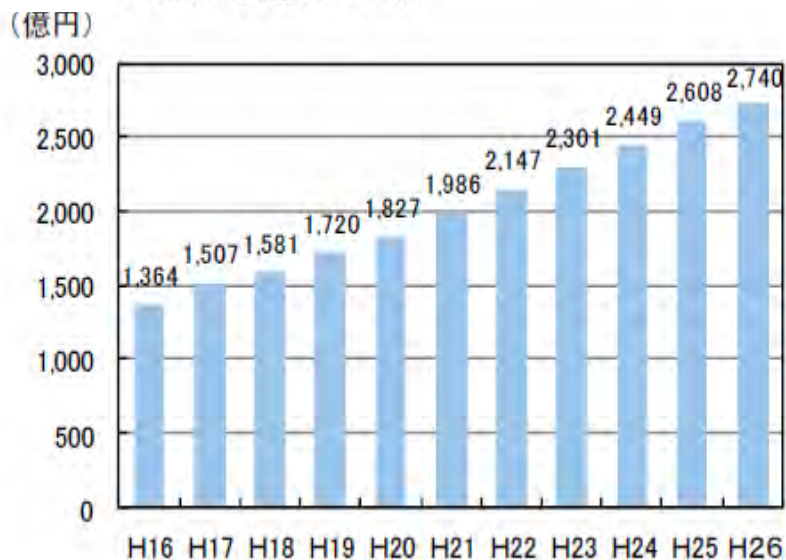
新たな提言

- 教育(6提言) ・診療(5提言) ・研究(5提言) ・地域医療(4提言)
- 国際化(5提言) ・運営(4提言) ・歯科(6提言)

〈改訂に当たって〉

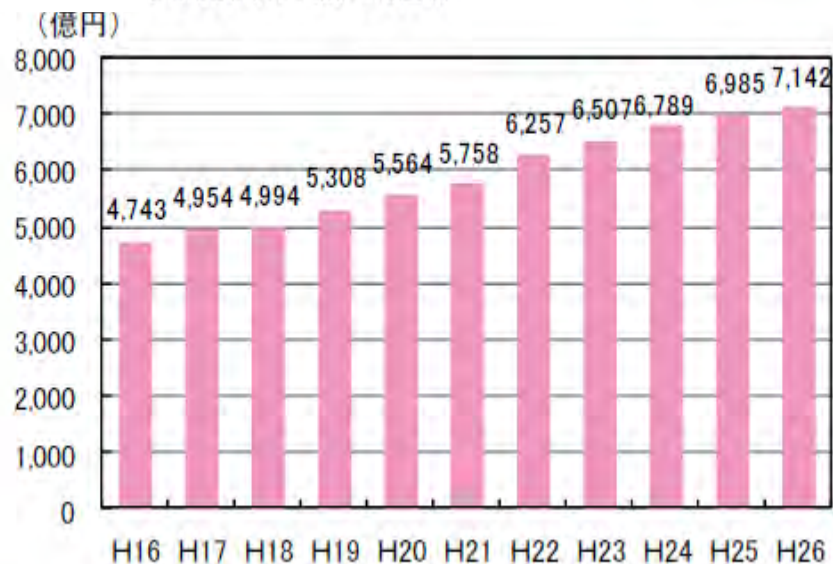
■これまでの実績

外来請求額の推移



H24 外・入合計 9,238億円

入院請求額の推移

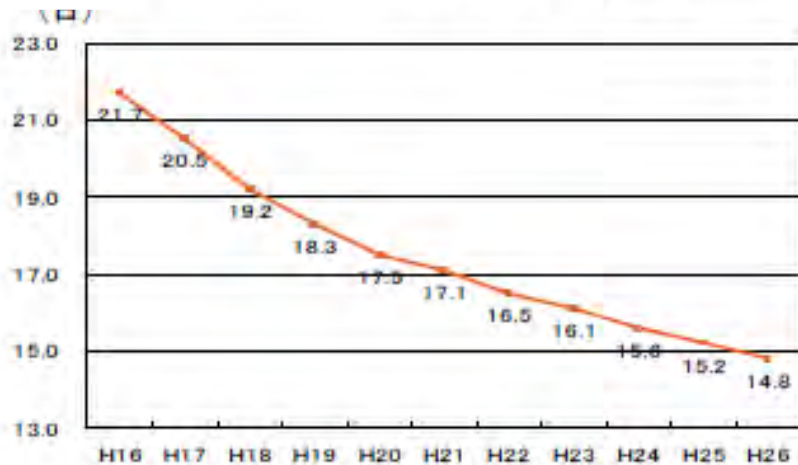


H26 外・入合計 9,882億円
(対H24 644億円増)

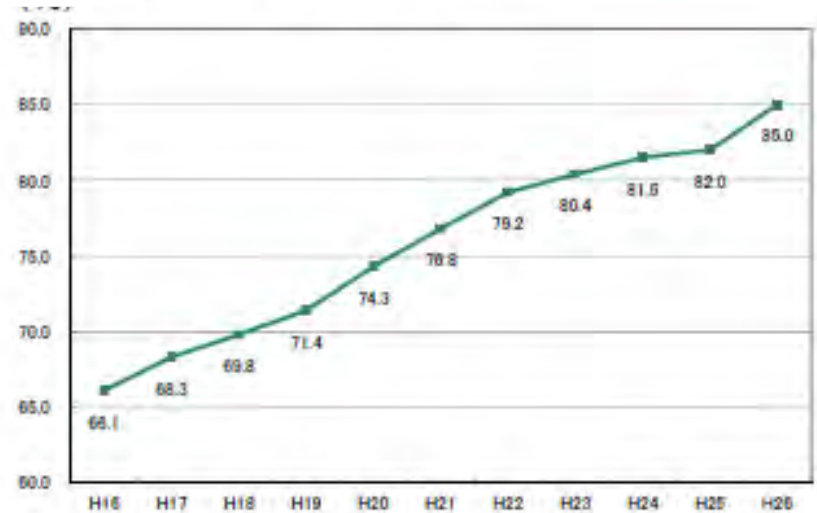
〈改訂に当たって〉

■これまでの実績

平均在院日数(一般病床)の推移



患者紹介率の推移



〈改訂に当たって〉

■これまでの実績

近年の手術件数の推移(国立大学病院)



出典:国立大学附属病院手術部会議調べ

提言1	医療安全・医療倫理・研究倫理などの教育を管理・運用する仕組みを整備し、全ての医療人に求められる能力の修得を図る
提言2	国立大学附属病院が、地域・大学病院間のネットワークを活用し、リサーチ・マインドを有する専門医育成の中心的役割を担う
提言3	診療参加型臨床実習の更なる充実を図り、関連施設と連携して医学教育の質保証に取り組む
提言4	臨床技能の習得や医療安全推進のために、シミュレーション教育に用いる機材・プログラムを充実し、教育に従事する人材を育成する
提言5	医師のキャリア形成を支援するキャリア形成支援センター等の組織を整備し、卒前から卒後臨床研修・生涯教育に及ぶキャリア形成をシームレスに支援する
提言6	指導教員の臨床教育に関する業績について共通した評価方法を確立し、臨床教育指導体制を充実させる

提言1	患者視点に立った医療の透明化と、確固たるガバナンスに基づいた安全で質の高いチーム医療を推進する
提言2	医療倫理を遵守する体制を構築し、高難度最先端の医療を安全に提供する
提言3	医療関連の特区や患者申出療養制度などの規制改革を最大限に活用し、早期安全に新規医療を提供する
提言4	国立大学附属病院の組織的・人的基盤を整備し、高度医療の安全な提供と開発及びそれに対応できる人材を配置する
提言5	医療の質に関する指標を設定し、診療の評価・改善を行うとともに社会へ公表する

提言1	研究倫理遵守を徹底し、臨床研究の信頼性・安全性を確保し、適正な研究活動に邁進する
提言2	臨床研究に係る人材を育成し、研究マインドを向上させるシステムを構築する
提言3	先端医療の研究・開発を推進するために必要な人材を確保し、基盤を整備する
提言4	ネットワーク化推進とAMEDとの連携強化により国際的競争力を有する新たな医療技術の開発を一層推進する
提言5	国立大学附属病院の臨床研究に関する情報を広くわかりやすく発信する

提言1	地域の行政や医師会との連携を図り、少子高齢化や疾病構造の変化に対する長期的視野に立った新しい地域医療提供体制を牽引する
提言2	卒前から卒後を通じたキャリアデザイン支援等を行い、地域に必要な医療人の育成を積極的かつ継続的に担う
提言3	メディカルICTの充実による新しい医療提供体制を整備する
提言4	自治体・地域医療機関との連携等を強化し、地域の医療安全・感染対策や大災害時における危機管理に積極的に参画する

提言1	外国人に対する医療サービスを充実・強化し、質の高い日本の医療を提供する
提言2	日本の医療の人材・技術・システムを積極的に海外展開し、国際貢献に寄与する
提言3	海外からの医療人受け入れを推進し、教育・診療・研究を通じて、相互の医療レベルの向上を図る
提言4	情報通信技術の整備・活用により、海外拠点病院群との連携を強化し、世界をリードする医療連携を構築する
提言5	国際医療を担う専門部門を国立大学附属病院に設置し、専門部門間の連携を強化することにより、上記提言を実現する

提言1	病院長の権限を明確化するとともに、病院のガバナンスの強化を図り、国立大学附属病院のマネジメント力を高める
提言2	国立大学附属病院の中長期的な財政計画の立案・実行を可能とする制度を確立し、病院経営の安定化を図る
提言3	国立大学附属病院で勤務する職員の標準的な人事労務モデルを確立し、当該職員がより活躍できる職場環境を整備する
提言4	データベースセンター及び病院長会議事務局の機能を充実し、国立大学附属病院の運営基盤の一層の強化を図る

提言1	多職種に対して、全身の健康に貢献する口腔科学に関する教育をさらに推進し、教育コンテンツを整備・標準化する
提言2	歯科医療職種に対して、歯科医療技術高度化や疾病構造の変化に対応する教育を増強する
提言3	口腔から全身機能を維持・改善させる栄養摂取状態の把握と指導法を伴った新たな歯科診療体制を整備する
提言4	臨床研究推進の基盤整備とエビデンス構築のために歯科疾患・治療の評価系(臨床検査)を強化する
提言5	災害時にも対応できる多職種による医科歯科連携体制を構築し、地域医療に貢献する
提言6	世界をリードする歯科医療と歯学教育を提供するため、国際的連携体制と外国人患者受入体制を充実する

最後に・・・

国立大学附属病院は、教育・医療・研究を通じて、国民と社会への高い貢献が求められている公的病院です。

「我が国の医療の充実・発展に寄与する」という重要なミッションの達成のために、国立大学附属病院は自身の自己改革と相互連携を強化していきます。

「グランドデザイン」は、時代の変化や国民の要望とともに変化するものでもあります。

PDCAサイクルなどにより、自己点検を行いながら、今後も継続的な見直し作業を行っていきます。

そのためには、国や社会からのなお一層のご理解とご支援が必要だと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。